WASON
HQ
1104
J74+
Jan. 1894
210362

明治十八年初刊

女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百六十二號

要目

孤兒院への義捐　社說
女學生の勤儉　講壇
某女子への消息　徒然草
オフヘリヤ論　文藝
春風裡　小說
博愛社年報　時報
ウイラードの猫　片々

明治二十七年一月十三日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百六十二號目録

社説
孤兒院への義捐（上）

講壇
女學生の勤儉

徒然草
喙背居記（某女史への消息）　市谷生

雜録
年頭の戒、世に處するの途、一、二〇
米袋の事
喫煙するとせざると

文藝
ハムレット曲中のオフエリアを論ず

書架
日曜學校の敎へ方
聖書の眞理摘要

婦人矯風雜誌
いちの
君子國
万國宗敎大會議前篇

小説
春風裡
不知庵主人譯、トオストイ伯著

片々
當年月次御歌題
褒章
ウイラードの猫

時報
富山縣師範校女子部と敎科書の交換◎子守敎育所◎岐阜博愛社記事廿六年中通記

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百六十二號

明治二十七年一月十三日發兌

社説

孤兒院への義捐

去る二年間は、孤兒院流行の時代にてありけん。新たに設立せられたるも多く、之に身を献げたる人も多く、一般世人が之に注目して義捐を寄せたる額も亦多かりき。ミウレルは、信仰によつて万事を成すとを得べきの確證を見さんとて、世に於て尤とも果敢なく尤ともつれなき孤兒に着目し、之が生計の維持、之が敎養の料、ともに甚はだ獲がたきとを覺悟して、ことさら至難の事業に身を委ねたりと聞及べども、日本の孤兒敎育は、左して六かしきようにも覺えず、寄附金續々として絶えず、生計の度合ひも下等社會の上に出で、之に身を與ふる男女は、忽まちに献身者の美名を專ぱらにして、万事すべて長閑なる春景色の躰ありき。此を以て、識者はひそかに眉をひそめ、孤兒院の眞の父母は、大恐慌遠からじと戒心せられたり。果せるかな、去年下半期の頃よりして、一時の情熱次第に冷却し、寄附金の額追々に減じ、一たん身を許して院に献じたる人も、さま〲の故障に負けて半途方向を轉じたるものなきにあらず。近頃ろ、各地の孤兒院の景况を聞くに、何れもさびし氣にして秋の景色あり。落葉一つ二つ、時は尤とも嚴そかなる幽致を促がし來れり。吾人は、今に於て、確實なる眞誠なる孤兒院の友と、謹しんで相謀る所ろのものなかる可らず。

孤兒院なるものは、人情の靈趣と至大の關わりを有す。其の發企せらるるも、其維持せらるるも、最と聖なる趣意に影響す。孤兒院は、人の尤とも美くしき情知を發揮し、また助長するものにて、人間、世に生き存らふるの主旨、單に衣食にあらず、人相ひ棲ふの道、決して競ひ争そふにあらざる所以を明らかに訓示す。孤兒院は、天道人情の世に顯現したる貴

金の冠なり。其在様を察して、當世の道徳を推測するとを得べし。吾人が、年來、孤兒院に重きを置くの所以は、此等妙えなる關係の存するとを認めたるが故なり。

よりて、熟ら、孤兒院なるものゝ、維持法、敎育法、義捐法等を思慮するに、皆何れも至妙至奥の道を存し、之に深切なる講究と、潔よき決意とを必要すべき理由、彷彿として目前に認たむべし。孤兒院は、實に人世の至道を行ふもの也、信仰の絶頂を歩むもの也、敎育の理想を守るもの也。之が盛衰進退に關はるべき道理を思慮するは、尋常一様の淺々しき俗見解をもてす可らずとは覺らるれ。翻がへつて、在ふれたる世態を察するに、孤兒院への寄附は、錢と食物と衣服。孤兒院の敎育は、職業と小學敎育と畧定したるものゝ如く、見解いたつて淡泊にして何の雜作もなきものゝ如し。吾人、ひそかに憾みとし、孤兒院の眞の父母たる人に就きて、叩く所ろあり、又つら〱愚存を運らして少さか案ずる所ろなきにあらず。夫れ、眞の友は平時默するもの也。天下熱血の眞實なる孤兒の友は、久しく、沈吟し、嗟歎し、鬱勃として、今や將に時勢に對して檄告せんとする所のものなからずや。則はち、敢て隗より始め、先づ以て愚存を吐露して、大方の氣焔を導くべき一點火たらんと欲し、最初に孤兒院への義捐に付きて陳べんとす。

當今の義捐は、錢と、食物と、衣服の類のみ。義捐者は、只た此等をさへ多く寄附すれば、孤兒院の維持は安心なりと思惟せらるゝが如し。

左れど、仔細に、院内の景况を知たらんものは、かゝる義捐法のみにては、たとひ其額を方今の二倍三倍とするも、尙以て其欠點を補なひ、其基礎を堅するとを能わざる所以を悟らん。一例を擧れば、院内の食物は、畧ば一定の度合を設け、たとひ寄附金多くありとも、之が爲めに食品を美くするなどの容赦はあらざるべし。然るときは、月末の殘金格外に多からんが故に、寄附者は、此の景况を見て、直ちに安心し、翌月分の寄附金は、他の慈善用に宛つるともあるべし。斯して、院内に存する或る事の欠乏は依然として、元の如く、毫も之を補足するの日ある可らず。左らば、院内の當路者、殘金多くある時には、直ちに之を他の必要なる欠乏にあてんか。例せば、地所の買入れ、建物の増築、もしくは器具器械の充足な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

どにあつるとせんか、當路者が、尋常の寄附金を用ひて專斷私決するとの當不當は別事として、抑そも殘金の何程までは此等の用に充つるとを得べき。此れ眞とに謹愼なる當路者が大ひに惑ふ所ろなるべし、寧ろ如かんや、義捐の方法初めより備わり、寄附者の精神、最初より明らかにして而して院に到着するとの優れるには、苟くも此一事なくんば、院内の巨大なる欠乏は、いつ迄も補足せらるるとなくして止まん。

更に、他の一例を擧んに、院内の父母たり役員たる人々が、食物を孤兒と同様の格に据えらるべきとは、明白ながら、抑そも、年長者と年少者とは、生理上に於て、其食品の需要を異にすべきと勿論なる上に、當路者日夜の辛苦勤勉は其頭腦を大疲勞せしめ、無邪氣なる小兒が、淡泊なる食物をも化して十分の養素を採取し以て攝生遺憾なきと同日に談ずべからず。然るに、院内の實勢と、敎育感化の上の必要と、當路者が万事を孤兒と共にするの献身的熱愛とによりて、遂に以て食品の區別を爲さしめざるのみか、特に牛乳、鷄卵の如き滋養品をすら、別用するとに安んぜしめざるべし。此に於てか當路者の身躰ます／＼疲勞して、献身的の決意いよ／＼堅く初めより倒れて止むの大精神確固たるが故に速やかに一身を抛うつて后の繼續者を待たんとす、此時に當りては、尋常の寄附金、如何に巨多なりとも、遂に能く此の大欠乏を足すと能はざるべし。

又更に、他の一例を擧んか、方今孤兒院内に献身する人々は青年を多しとすれども、此は一時の現象にして久しきに續くべからず、況んや現在にても、其生父生母と共に院内に在る人もあるべく、或は又、五十以上の長年者にして餘念なく助力せらるる人もあるべし。然るに、此等長年の人は、年華一層しぼみ、齢ひの歯大抵ぬけて、腰骨、弓と曲り、もはや朝夕の勞役を爲すと能わざるほどに至らんとき、孤兒院は、之に對して如何なる取扱を爲す乎。孤兒院なるものは、必らずや、之を院の長老として、久しく休養奉省するとを希望すべしと雖ども、献身者が心膽は之と異なる。現在、何の勞役をも爲さずして、院内の厄介とならんとは、切腹するよりも尙ほつらかるべし。彼の人々が安んじて院内に留まらざるとは明白なり。左らば、此の長年の人は前途如何にすべき。彼の人々自身は、天に任せ信じて、現實の事に働らき玉ふと必せ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

りと雖ども、世の義捐者たるものは、先以て茲に一考せざる可らざるにあらずや。則はち知るべし、通常の寄附金を如何に多くすとも、毫も此等の大欠乏に對して補足すること能はざるの所以を。但し献身の人は尙ほ可なり。彼の孤童孤女が生長して、女は婚期に達し、男は、獨立成業の年となれりし日、孤兒院なるものは、如何に之を遇せんとする乎。彼等は、皆な院內に留まりて、共同助力すべき乎。決して然ることをもつて孤兒院敎育なるものの面目とはなすまじ。たとひ、よし相留まりて共に院內に合力するとするも、數十數百の孤兒銘々は如何なる仕事を行つて勞役すべき。其資本金は如何にして得べき此れ實に遠からずして到來すべき切迫せる大問題にはあらずや。然るに、之も亦た、尋常の寄附金を以て補足すべからざるの欠乏なりとす。

左れば、見よ、天下の仁人、如何に其義捐を多くすとも、先づ其方を盡し、其道を備えて之を寄附するにあらずんば、折角の志望空しく達せず、殊勝なる美德も根なくして枯れんとす。故に、孤兒院へ對する義捐の方法なるものに、極めて信切に、尤とも遠大なる經驗を立んと頗ぶる肝要なり。

講壇

女學生の勤儉

左の一篇は、東京青山英和女學校內女子職業部の開校式に際し、編者が演說したるものを筆記せしなり。

私は一躰目出度ひ席上には不適當なる人物で、開校式の祝辭を述べるなどは殊更ら似合しからんものです。其上、演說は大嫌らひでありますから、折々懇望せらるる所ろへも大抵は出席いたしません。然るに、今日の此開校式に於て一言を述べますることを友人田村武治君より御委賴になりました節、喜こんで承諾いたし、殊に數日前來病氣にて引こもり昨日辛ふじて起出でましたるほどで甚はだ失敬なる容貌を致し居りまするにも拘はらず、今日推して參上いたしましたるは、抑そも理由あることで、御座います。即はち、今日は、基督敎を主義とする、女子の、職業學校が、開設せられましたのであつて、時弊を矯め、女風を改むるに、方今至極の要務と信じ、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

满腔の熱情を以て賛成の意を表したく、併せて一言の微衷を申し述べたしとて、斯く、喜こんで御承けいたし、推して出席しましたので御座りまする。

扨て、世に處して事を成しまするに、二つの大切なる覺悟が御坐ります。たとひ、理想何如ほどに高く、精神何ほど潔白でありまするとも、苟くも實際世間に於て事業を成す、と云ふ以上は、決して此二の覺悟を忽諸にするヿは出來ません。

　其二つとは、勤儉

即はち、勤勉と儉約との二つで御座ります。

勤勉よく、勵み、儉約、よく節して、初めて一の事業は出來まする。我國の今日の如く、盛んに多くの事業を成さねばならぬ時節に於ては、倘更ら、此二つを一日も欠くヿが出來ません。維新の頃は、改革の精神勃々として、何如なる筋道にも脈々、此元氣を鼓動しつゝありましたやうで、

　盛んに經綸を施こし人心をして倦まざらしむ、

などの勅諭も出で、國威を海外に振ふ、御凌威を万國に輝やかす、などと云ふ盛んなる人氣でありましたるに、此事未だ緒より離れざる今日に於て、既に其精神が衰ろへ行くヿを見ます。我國は、亞細亞諸國の率先者となり、案內者となり、傳道者となりて、此の東方一大洲を開發すべき大使命を負ふて居ります。偉大なる事業が、山の如く前途に重なつて居ります。今日は、實に、大有爲の時で、正に是れ維新草創の眞最中でありませう。此時に際して、因循姑息、安をぬすみ、怠りに耽けつて、既に早く隱居氣性を出さんとするは何事でありませう。此の大戰爭のたゞ中に、勤勉の性根を失なはんとするは、何事でありませう。

我國の目下にも、將來にも、如此く多くの事業を引受け居るに付きましては、一方に勤勉なると共に、又、非常の儉約を爲さねばなりません。事業が多くして、金が乏しいのであります。儉約せねば、どうして之を成し遂げるヿが出來ませうか。

　此席上に居らるる津田仙氏

が、曾て出入の植木屋を勵まされたる一言を明治十二年の頃新聞紙上で讀みまして、私は、大に感激し、今以て自己の戒といたして居ります。或日、植木屋が、先生の前で、得意らしく安閑として誇つて申しました、私はお蔭さまでモウ借

金もありませんから、追つけ樂隱居が出來ます、と。スルト、先生が、戒しめて言はれたには、夫は大變な間違ひで、お前はまだ大分借金をして居る。何故かと言ふに、我國には、四億万圓と云ふ國の借金がある、此四億万圓の國債は、四千万の國民が負擔して居るものゆへ、一人で、十圓づゝの借金は、赤兒でも、病人でも、片環でも脊負つて居る。お前の家内が八人とすれば、まだ八十圓の借金が有るではないかと言はれたので、

植木屋も大ひに感奮した

とありました。私供は、今もつて尙ほ三億ほどの國債を負ふて居ります。前途の事業は前に多く横つて居れども、目の下には資金が極めて少なく、脊中には、借金の重荷があります。此上は、勤勉と節倹との外は、致し方はありますまい。斯の如く、目下の時勢に、勤倹の覺悟が大切なるに、何故ぞ、月に日に此の心得は減じ行き、追々、なまけ根性、見え坊、過分の奢りなどが流行して參ります。

たゞ政治社會など丈けならば、まだしもながら、宗敎社會にすら、其弊が及びました。又、老人仲間のみならば、少しは恕すべきですが、青年間にすら、其弊が行渡りました。まだ、男子の青年丈けならば、宜しいが、

女子の青年、即はち女學生

の間だに至るまで、既に此弊に化せられました。女學生間に勤勉の美風が失せたることは、實に驚ろくべきほどであります。

日本今日の事業は、何事も創業です、然し、創業中の創業とも言ふべきは、女子敎育でありませう。何事も皆な維新だと申しませうが、維新中の維新とも言ふべきは、女子の社會であります。

古しは、門外にすら出さず、深窓の戸すら開けないで、護り育てたる娘を、たゞ一人はる／＼東京まで上らせて修業させると云ふとは、實に驚ろくべき變革です。東京の眞中の日本橋の近邊で、土藏づきのシッカリしたる身代の舊家に入つて見れば、

娘はまだ古風そのまゝの躾

をうけて究屈にして居ます。然るに、私の關係して居りまする女學校で例を取りましても、佐渡金山の邊、北方箱館の邊

西は、江戸長崎とうたわれた其長崎、鹿兒島、土佐などと云ふ、はし〳〵から、たゞ一人で登つて來て寄宿します。之は、非常な變革で、また非常な卒先でありませんか。即はち、今日の女學生は、維新草創の事業を成すもので、其同性の多數に先だつて破天荒の先例を開きつゝあるものです。

夫故、男子の方に其對を求めますれば、先づ、蘭學者が初めて蘭學をした時とか、維新改革の志士が、東西に究して國事に奔走したとか云ふとと似たるものでありませう。蘭學事始に書いてあるように、

「鼻」と云ふ一字を讀むに

三日もかゝるとか、又は、中村敬宇先生や、福澤諭吉先生が、英學を習はれたる初め、敬宇先生がウエブストルの大字書を深夜ごとに寫して過半卒業せられたと云ふ如き苦心、其外、維新時代の士が、辛苦刻苦したるほどの勉强は、當に今まあるべき筈でありませう。今の女學生たるもの、其の卒先者たり、改革者たる地位を省りみれば、もとより此樣の決心がなくてならぬ筈であります。

然るに、今の女學生が、兎角勤勉の精神を欠き、随つてムダ遣ひを爲し、女にあるまじき怠慢圖鹵の弊多きとは、歎かわしきとと存じます。

或る女學生が、夏休に田舍に歸りました時の處行を、近頃ろ人から話されて、實に歎息しました。其女學生は、夜をそく迄で、何かブラ〳〵して居て、朝は隨分ながく眠つて居ます。シテ、御膳を食べるとお膳をグイと突き出して、其まゝ立つてゆき、何處かで肘を枕にして

牛の如くねます

戸のあけたて、そうじ、食後の片付杯には一向頓着しません。餘りと思つて少し言ふと、苟くも女學生たるものがソンナ區々たる小事に拘泥してなりませうかと返答したそうであります。年中、父母の膝下を離れて、其のお仕送りの學資にて不自由なく勉强を仕て居るのであります。切めては夏休丈けでも、家に歸りて、母さまの勞を助け參らするが、至當の心掛けでありませう。情けないとと、私は存じまして、其の人に申しました。イエ、本當の女學生は、決して其の樣なとを申しません、それは其の御一人の不了見でせうとは言ひましたが、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

隨分此類のお方がたも御一人でない

そは、歎ずべきであり升、必竟、これは、物事に勤勉なる氣象が無い故で、休みと云へば、直ぐと、なまける圖鹵なるくせがあるからの事です。一事は万事で、大抵、此類の弊が、當今太はだ多いです。活潑なる年少血氣の娘が、仲々ぶせうで、直ぐと車に乘りたがり、やゝもすれば人を使ひたがり、自から手を卸して、ふき掃除、洗濯、片付ものなどをする元氣が無いようです。

おバアさんが寒中巨燵にあたつて

ぐつ／＼して外に出ないと云ふ如き景況が見へます。何と云ふ、不勤勉、不活潑の事でありませう。

之と同じく、太はだ、不儉約です。田舍の慈愛ある母上が、丈かつこうより顔色までを考がへて、あの縞、この紋樣と思案なされ、經營慘憺たる苦辛をもつて、自から織り、自から仕立て玉ひたる丈夫にして輕薄ならぬ、

田舍じまの衣物も

東京に上つてから少こし立つと、隅に押し遣られ、株主組織の利を貪ぼる會社で冷やかなる器械によつて織られたる薄つぺらの紡績ものなどをピカ／＼光らせて着ます。私は、先づ其の情けなく、つれなき心得を嫌ひますが、不儉約も亦た太はだしひではありませんか。又、女學校などで、鉛筆の二三寸ほどになつたものや、毛糸のくづ、紙きれ、インキのつかひかけ、墨の短かくなつたものなどが、掃除のたびに多く出ます。私供の如きものすら、墨は小さくなれば、竹のはさみで挿み、鉛筆の短かいのは、鉛筆はさみに入れて遣ひ、インキは、無くなれば、其瓶でつめ換をさせ、紙きれは、ついで置いて用ゆるか又は其まゝ貯へて端書の用にしたり、又カンゼヨリを仕たりすることを教へられましたが、今の女學生は、女ながら、實に氣の大きなものです。

木村鐙子君は

かつて書生の棄てた、四寸五寸の毛糸を集めて、靴下をあみ、色がはりの結構な品を示して、書生を戒しめられたことがあります。近頃ろ、孤女學院で、巻紙や帖袋を製して、各女學校に賣捌かるゝ處、餘程上等の品で賣れが悪るからうと思つて心配するものが第一に賣れて、まだ／＼結構なる品がないかとの注文が多くあるとて驚ろかれたを聞きます。之れが、今ま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の女學生のおどりの一斑です。ウェリントンが、人から來た手帛の白い所ろを切り取つて繼いで置いたと云ふ美談に較べて見て何如がでありましよう。女は、やさしいことを尊とび、又た

風流の心を重んじなければ

なりませんが、入費を餘計にかけずとも美の心を發揮することが出來ませう、私は、ある女生が塵紙同然の粗末の紙に、牽牛花の花を散らして押したのに美くしく信切に心の中を認ためて送りましたを讀んで感泣しました。加賀の千代は婢の仕事をするうちに千古の風流心を煥發せしめました。費えを多くして美を飾るは、成り上りものの本色で、實に恥かしひことです。

一躰、女性は、男子よりも謹愼でつゝまやかなものです。所云る勤儉の念に富むとは、其の天稟であります。然るに、近頃の女生が、身、維新中の維新、率先者中の率先者たる地位にありながら、斯の如く、圖鹵、怠慢、不節制、不儉約に流れゆきまするは、何故でありましよう乎。私、思ふに、之は敎育上の缺點で、近來の敎育が、此の勤儉の念を養なふことが甚はだ足りぬからの事であらうと信じます。

夫故へ、方今の女子敎育には、勤儉の二字を明らかに掲げ、其精神を吹込み、此の覺悟を養なふ爲めに、大ひに學風を激勵せねばなりません。尋常普通の女學校の中でも、万事に此習慣を養なふことに心掛けねばなりませんが、女子の職業の觀念を發揮することが、第一の近か道であります。職業敎育は、勤勉の心を養なひ、獨立の氣象を振ひ起し、製產衣食の六かしひことを覺らせて、自から節儉の美德を作り出すものであります。夫故

今日の女學界に、職業敎育

の盛んにならんことを只管ら希望して居りまするが、此度び本校の開設せられたるは、即はち此の理由に據ることと信じまするから、誠實に本日の開校を祝することで、即はち私が滿腔の熱心を以て此に出席いたしましたる第一の理由であります。

然る所ろ、職業敎育には、是非とも一の高尚なる主義を欠いてはなりません。もしも之を欠くときに於ては、人を器械にし、物質の製產を第一の理想とするに至りまして、甚はだ恐るべき弊害を生じます。勤勉と節儉とは、前申しましたる通

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り、極めて大切なる覺悟ではありまするが、抑そも何の爲めに勤勉する乎、又そも〳〵何の爲めに節儉する乎、先づ其の主旨目的が明らかならぬときは、切角非常の勤勉節儉も、人間の德として左したる効能なきものとなります。

驢馬が汗をたらして荷を負ひ、牛があへいで車を引く。其勤勉は肝心ですが、人間の勤勉とは違ひます。

君子は器ならず

とも申して、人は器械の代りになるものではありません。夫故、額に汗し、手に唾きして、營々役々勤勉しても、勤勉の主旨目的にして人道に適はずんば、何の甲斐もありません。ソコデ、勤勉を主張すると共に修養を主張し、大人となるには間暇を要すとも申してあります。基督敎に於て安息日を尊ぶの主意も必竟此の意味によるのでありませう。

又、儉約をするにしても、何の爲めに儉約をする乎。古來、儉約が往々吝嗇に陷いるヿを歎いてありまするは、ツマリ、儉約の眞の主意が徹して居らぬからの結果です。近頃ろの節儉は、

灰吹主義で、

所云る溜まるほど不潔なくなります。錢を溜めて、不德を積み、入費を切りつめて、美質を縮めると云ふは、眞の主旨でありません。經濟に對する二種の誤謬のあるをば、先月女學雜誌で卑見を陳べて置ましたから、御覽を請ひたいですが、實に一方は拜金宗の奴隸となり、他の一方は、王何必言利の說を一天張りにして、君子は經濟の事を知らぬもの、士は算盤を彈かぬものと斷定するは、双方ともに僻論です。經濟と道德とは、相ひ表裏をせねばならぬもので、之を一方に僻するときは、迂となるか、陋となるか、

馬鹿な仙人

となるか、野卑きわまつたる素町人となるかの何れです。二つながら吾黨の採るまじきものです。夫故、儉約は人のためにせねばなりませぬ。もし利己の心からすれば、儉約するほど利己心を增長するので、人物の下るは當然の事です。先づ、天地の恩を知り、身の程を辨まへ、世上にあはれなる人の多きヿを察しますれば、迚も榮燿は出來ません。其上は如何ほど人に盡したいと思ひましても、錢がなければ、手が屆かぬと云ふヿが屢ばあります。平生から用意をして、マサカの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

入用に貯蓄して置ねば、美くしい精神があつても、之を實行するとが出來ませぬ、聖書に、ヤコブの言葉があります、至極の教訓と存じます。

私は、親戚に病人がありまして

其の如何にも悲しげなる痛ましひ有様を見まして、初めて錢の尊とひとを知り、經濟を愼しんで万一の用に備へねば、自分の病氣は兎に角、人が見す〳〵死なんとするを助けるとも出來んと、深く感じました。又、自分の家、に可愛ゆき人が生れて來まして、呱々と一聲泣きました頃ろ、俄然として、此の天來の子を如何に敎育しようか、如何にして重大の責任を盡さふかと氣付き、家族と云ふ自己の責任をなつて居る人の爲めにも、深く經濟を愼しまねば成らぬものと悟ました。

子孫の爲めに美田を買わず

と云ふは、必らずしも完全なる敎へではありませぬ。第一、子孫に遺すべき大切の敎は、もとより物質や財產ではありませぬが、其の精神的の遺產を殘すと共に、此の精神を活用することの出來る方便をも幾分か遺しやることは、文明の一特質たる資本を重んずる道に適つて居ります。然し、他人にせよ、子供にせよ、何れにせよ、自分にてあらぬ、他の人の爲めに儉約するに至つて、初めて儉約の眞の主意を得たのであります。

扨て、勤儉の二つを、大畧右に述べましたる如き主意で實行するでなければ、折角の勤勉節儉も反つて人の德を害するとゝなります。昔しは、二宮先生の如き、又、鷹山公の如き人があつて、十分に此主意を實行して人に敎へました。川端の僅かの地面を餘力を以て耕やし鋤き、之に菜種のコボレを蒔き付けて、油を取り、夜々、人が寢たあとで勉强をされたと云ふ一事は、

二宮尊德先生一生涯の勤儉

を十分にあらわして居ます、又、十五万石の大名で、金一兩の融通すら付かぬ極々、貧乏家督を相續し、十七才、國に入る途中、駕の中で、消かゝつた烟草盆の火を吹き起して、再興の意を決し、こしもと九十人を九人に減じ、木綿を着、粗菜を食ひ、御殿のお池に鯉をはなし、大奥に蠶をかふと云ふ大決心をもつて、夜中は、

燈心二本を一本に減じて

靜かに讀書された上杉の鷹山公は、勤儉の理想を十分に教訓して居られます。私は、本校の女生諸君に、

報徳記と、羽陽叢書

の二書を推薦したいと思ふものです。

勤儉が大切であるのみならず、勤儉の主意を知ることが同じく大切であります。彼の二宮先生の如く、又、鷹山公の如き主意を以て勤儉あらんことを熱望するのでありまするが、今日に當りて、此やうなる精神を以て教育する學校は、先づ基督教主義の學校であると申して宜しからう。夫故、單に、錢をもうけるとか、メシを食ふとか、身を立てるとか、首をもたげるとか云ふ丈でなく、人道にかなつたる眞の勤儉の武德を吹込むべき職業學校は、之を基督教主義の設立に求めなければなりません。然るに、本校は、此の精神をもつて、女子の、職業教育を行なわると、申しますから、私は、一層の滿足を傾盡して、本日の開校を祝します。これ、私が喜んで此の席に推參いたしましたる第二の理由であります。

かゝる主義、かゝる精神の女子職業學校が、本日より開かれました。私は、眞實に之を祝します。

然し、學校は建物でありません。たとひ、此學校を開き升ても、もし彼の精神主義にして開けずんば、學校は依然、未だ開かれぬと同じことでありませう。本校の校長、教員、役員諸君に、彼の御精神が鬱勃たることは明らかでありましようが、もし諸生諸君に徹底することなくんば、未だ其精神が行われぬのと同じことであります。故に、今ま本校の開業を祝すると共に、之を望み、之を求め、前途に對する熱望を開陳して置きまする。

◉女監取締の制服　（制服の制定を望む）

現今女監取締は、全國に二百人有餘ありとす、而して各府縣に就きて之を見れば、其の制服或は粗末なる被布を覆ひ、宛然職工女の如き者あり、或は筒袖袴を着くるあり、或は濶袖、着流しなるあり、其の樣一ならず、苟も監獄の吏員たる以上は、相當の體面を保つこと必要にして、以上の如き威容にては果して能く適正に、女看守たるの責任を全うすることを得べきにあらず、これ當局者を待ちて後に知るべきにあらず、現に、歐洲諸國、殊に英、獨、佛、及び米國に在りては、女監取締は、既に一定の制服を着けぬ、此の點に於て不紀律なるは、獨我國のみなりとす、予輩は、先、女監取締制服の制定を望まざるを得ず

（監獄協會雜誌第六十七號）

つれ〳〵草

曝背居記（某女史への消息）

市　谷　生

小日向の岡冬枯れはてゝあまりに寂しく相成候間市谷へ引越し申候此度の居は東むきにて晝すぎまで日影さし入りいとゞ暖かに御坐候背曝しながら文よみ候も一樂事に御座候かく氣まゝに居を易へ候には正直正太夫氏が小説家が家、脊負て生れぬが大々不都合なりと云はれしことなど思ひ出でゝをかしく候

招魂社眞向ひに見え候番町の壕堤の冬枯れたるさまもおもしろく覺え候ある夕に

　をちこちに窓の燈火見えそめて堤の松はくれはてにけり

など申候歌はよろしからねど實況に御座候

當時の政界何れも權變を行ひて相誇り候中に孤鶴を雞群に見候如く正議諤々卓立不羈、古賢の風あるは谷將軍を措きて他に之あるまじと存じつね〴〵欽慕し居候ひしにこのたびすぐ將軍の邸南に來寓致候ことちぎりありげに覺え候て喜ばしく御座候そのうち謁を乞ひ示教を仰ぎ候つもりに御座候

母より寫眞送れと申參候間この間うつし申候さてそのうちに

　年々に己が姿もかはれるを世の中のみと思ひけるかな

とかいつけ申候

此頃課書の外にて座右に備へ候てくりかへしひもとき候はつれ〳〵草、枕草紙、高青邱の詩集、及び鷗外先生の水沫集に御座候とり〳〵おもしろく候枕草紙のうちにては雪山のあらそひの一章を殊に妙文章と存じ友の參り候ごとに讀せ居候此章のみの評釋樣のものつくり試み候つもりに御座候水沫集にてはうたかたの記、うきよの波、惡因緣、埋木、殊に面白く覺え候埋木は己れ未だ喝采うけぬまゝのゲザになりそうなる心地致しいつも讀了り候こと出來ず、こはそうにあちこちのぞき申候、小生西文に通じ候はねば「面影」はよしともあしともわかり申不候へども青邸子の譯はさすがに大手腕ある鷗外先生にても原作に比し候てはやゝ遜色あるやうに覺え候韻文の譯しがたきこと皆この通なるべく被存候たま〳〵落合氏が白菊の歌の原詩に優れる所ありとの評あるは原詩の詩

人ならぬ邦人の漢詩なる為に可有之候、たゞし散文の方は鷗外先生の譯文必す原作に立こえたるふしあるべしとわからずながら信じ申候

親しき友垣なる頁信こたび母を奉ぜんか為め金助町あたりにて煙草店開き候頁信が武術に於て青年輩に絶倫なること、西文に深きこと至孝友愛なることは御存の通に候世を忍びて假に煙草店の主人となり候もおかしく候さて其家をばよしのやと名けたりと聞き及び候ひしかば

うる品はよしのやなればよき人もよしと見てこそもとめますらめ

と書きて廣告のしりにつけよと送り申候

先達てさし上たる愚簡獨居記と名けて女學雜誌へ送り候處活字小僧賜を鵬とまちがへ申候をかしく候、しはす廿八日、

山家

里の子よ梅折りのこせ牛の鞭

高踏風塵外、
只向烟蘿寄此生。

雜録

年頭のいましめ、

丁々生

世に處するの途、一つ二つ

人と生れては、その生涯を美はしく送るの義務あり、此の希望だもあるとなき人は寔に人たるの甲斐なきなり。我等は神の子として生れ、不朽の寶をすら賜はりし身なるに、若しその光を輝かすとなくば、生れざるに如かざるべし。

如何なるを美しき生涯といふ、曰く其の天職を遂ぐると是れなり。的を誤まる之を罪といふ、故に罪ある生涯は汚れたる生涯なり。必ずしも天職の大小を問ふと勿れ、聖彼得會堂の建築も美なれど、拇指大の象牙細工も美なりといふを妨げざる如く、功業の大小は生涯の美醜に關係なし、要は只欠點なきを期するのみ。即ち神の意に背くとなくんば、之を絶美の生涯といふべし。

如何にして美しき生涯を送るべき、余輩は之れにつき二三の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

重もなる方法を說かんと欲す。

●第一　人は己れに克たざるべからず。多くの人は己れに克つこと能はず。己れ酒を飲まんといへば即ち酒を飲み、己れ業を休まんといへば即ち肱を枕にして眠る。斯くて敗北に敗北を重ね、遂に牙城を拔かれて其の箇人性をすら失ふに至る。夫れ義務は常に大なり、課業は常に困難なり、忍耐は常に苦痛にして情慾は常に強し。然るを常に敗北せば、我力は未來永刧増すことなし。

之れに反して人若し常に己れに克ち、苦痛を忍び、大義務を果す時は、是れより以往、如何なる苦痛、如何なる義務も、風を見て降りを乞ふに至るべし。米國の士人云く、人その敵を殺せば、敵の力はその下手人の腕に加はるべしと。勢の成る所、誠にさる道理ありて存することなり。

誘惑、義務、勞苦、憂愁とその面を對して脆くも降りを乞ふの人は實に憐れむべきかな。されど斯る弱卒をして勝利を得せしむる、豈その道なからんや。宜しく自信力を強くせよ、世の汚れたる希望を絕てよ、境遇の主人となりて奴隸となることなかれ。神は我れを忍び難き誘惑に遇はせずといふにあらずや、然るを之れに遇ふて忽ち敗走するは、風聲鶴唳に膽を寒ふする人と同じく、實に自信力に乏しきの致す所なり。且つや境遇は一種の魔物なり、愁人は春花にも涙を灑がん、境遇の奴隸となるは、境遇の魔力に魅せられたるなり。心獨り定まらば、彼れ我れに於て何かあらん。基督は生涯の間、連戰連勝せり。我輩その足跡を踏むもの何をか危ぶむべき。

●第二　人は他に服事せざるべからず、基督曰く、我れの生れ出でたるは、人に事へられんことにあらず。人に事へんが爲めなりと。我等亦此心を以て我心とするを要す。人の我れに愉快、歡樂、補助、利益を與へざるを悲しむなかれ。我れの人に之を與へざるを憂へよ。受くるよりも與ふるは福なりとは、精神上のことにも通ずるなり。我等已に此心あり、爭で人を傷ひ、人を陷るゝの念を生ずべき。却て戰々兢々、己れを謹むの念を生ぜずんばあらず。

或人は己れの威信の行はれざらんことを憂へ、己が名譽と地位に對する心配殆んど絕ふる間なし。是れ未だ人に事ふるてふ主義を解せざるが爲めなり。人は如何ほど虐待せらるゝとも他の無禮を怒るの前に、先づ己が行ひの他を傷はざりしや、

否やを顧みざるべからず。彼の船の洋中に相遇ふや、寔に瞬間の會合なれども、互ひに音問挨拶するとを忘れず。人生の逆旅にあるもの、相親睦し、相補助すべきと當然なり。人に物を與へたる時は、心地何時になくすがく〵しく、樂しきものなり。されば人を助け、力を貸すとは、我が生涯を幸福ならしむると、固とより論なきのみ。是れ愛の行ひなり。愛は報酬を求めず、フランシス、クヲールズ云く、人を愛すると的に矢を放つが如くなるべし、壁に球を投げてその反跳を望むが如くなるなかれ。と實に名言なり。

●●第三　今日の事を今日になすべし。人は遠き將來を想像するによりて疲弊し、失望す。我等は我が生涯を認めて二十年も三十年も永續すべきものなりとなす。故に此の長日月の間、如何にして此の重荷を負擔すべきとの失望も起るなり。我等は實際永久の戰爭に堪ふべきほどの精力を有せず、されど憂ふるとなかれ、此の戰爭はさほど永續せんやうなきなり。人生七十、古來稀なり。明日が今日となるまでは、我れ果して明日の人なるや、否やを期せず。明日の備へをなし、明日の事を憂へて、我明日なくば何かせん。今日の勤めをなし、今日を美はしく送らば、人生の能事は終れり。如何にその荷は重しとて、頓て肩を休むべき日暮の來るべきを知らば、爭で堪へ得ざるべき。其の事業は難しとも、一日の苦勞はなし得られん。此日一日と思へば、愉快に、安靜に、純潔に、居られざる筈なし。チヤールス、キングスレー云く今日の義務をなし、今日の誘惑と戰へ。見へざる前途を想像して、若くは見へても解する能はざるほどのとを思ふて、失望し、落膽すると勿れと。神は明日の見へざる樣に、夜てふ幕を與へたまへり。我等幕の彼方を見ると能はず。しかも强ひて之を見んとすると勿れ、目に見ゆる地平線狹くば、足の運び容易くして、意氣揚々の中に旅行するを得るなり。基督敎は未來の希望を說く、なれど基督敎の一大目的は來らんとする世の榮光を欽んとには非ず。現在の世の神聖を示にあり、人をして天の界を想像せしめんとするに非ず、地の神聖を認しめんとするにあり。天使の群中に坐玉ふ全能者を開被せんとするにあらず。ナザレの人の神聖を示さんとするにあり。是必ずしも未來を輕するにあらで、實に未來を重ずるの極なり。現在は未來の父にして、未來は現在を離て來となし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

現在を輕蔑して未來焉んぞ全きを得ん。此の道理より見るも、明日の爲めに今日を失ふとなく、今日を利用して明日の爲めにすべきと甚だ明かなるにあらずや。

以上述ぶる所、寔に處世法の一斑のみ。只聊か讀者をして發明せしむる所あり、依て以て美はしき生涯を送るの小補とならば可なり。夫れ此世は再び來るものにあらず、改めて之を經歷し、曩きの過ちを正し、其の汚れを拭はんとすればとて素より得べからず。されば我等若し我が生涯に過ちなく、汚れなきを期せば、初めより之を美はしとするの覺悟なかるべからず。過ちは何時までも過ちにして記錄に存し、汚れは何時までも汚れとして拭ひ去らるゝとなし。豈恐るべからずや。之れに反して美はしき三百六十五日は、美はしき一年をなし、美はしき五十年は美はしき一年となる。豈努めざるべけんや。

○米袋の事

兵庫縣津名郡志筑町の西田茂八郎と云へる人、多年穀物の商賣を爲せしが、虫くひ、鼠くひ、などにて貯米を損ずると夥たゞしく、さまざまに工夫して遂に紙袋を發明したりとなん。紙袋は、五斗入にて一枚六錢五厘、四斗又は三斗五升入にて六錢なるが、用ひ方は、十二月より二月中旬迄の頃ろ、米を此袋に入れて其上、俵に入るゝなり。効用は、濕氣を防ぎ、品質と、つやも其儘にて夏土用を過ごし風味を存せざるは勿論、いろいろの虫の害を防ぎ、其上、つき減り至つて少なく、一石に對し五六升の利益あるよし也。左れば、五斗入の紙袋二枚に十三錢を費やして、年ごとに五六十錢宛の利益あり。之を大きく概算すれば、一町村五百戸にて年々一戸十石の上にて五升づゝの利得ありとして、實に二百五十石の國益を生ず。日本全國一ヶ年の米產額凡そ四千石と見積り、其三分一、即はち一千三百三十三万石餘は此紙袋に入れて貯はえ、六十六万六千餘石の空費を防ぎ、一石六圓の價とすれば、實に四百万圓の利得あるべしと也。

○喫煙するとせざると

北米エール大學校の附屬醫兼躰操敎師スチーバー氏は八年以來煙草の身躰に關する利害を調査せんと欲し、喫煙學生と非喫煙學生との身躰を撿査し、其身躰發達上の比較を研究し、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

左の如き結果を得たり。

	喫煙學生の身躰發達	非喫煙學生の身躰發達
胸	〇、〇三〇四メートル	〇、〇三六四メートル
肺	〇、一五リートル	〇、二五リートル
躰量	〇、四キログラム	〇、五キログラム
身長	〇、〇一六九メートル	〇、〇二〇二メートル

此他、氏が八年以來の調査によれば、身躰の各部に於て、發達佳良の者は、非喫煙者にして、喫煙者には甚だ少し、然れども其喫煙一週間に、一回内外位なれば、或は害なきが如し、又身躰の運動極めて輕敏なる操躰學生は、喫煙者に少くして、非喫煙者に多きを見れば、將來身を陸海軍に投ぜんとする如き學生は、殊に喫煙を禁ずるを得可しとすと。(京都醫學會雜誌)

因みに云ふ、近來、學生の間に、喫煙の風いよ〳〵流行する躰にて、少年が、巻煙草を生意氣にくわへたる風采は、苦々しき限りなるが、學習院の如きは、近頃ろ、訓示を出して、此弊風を禁ずるに至りぬ。又、御婦人の喫煙は、就中、見にくし。貴婦人など云ひ玉ふ御方が、洋服のかくしより煙管を取出して、空うそふいて煙を吐く御様態などは、眞とに有がたからぬとと見ゆる也。

文藝

○ハムレット曲中のオフエリヤを論す

眠叟

シエキスピヤが寫し出せる女性の中に際立ちて見ゆる二人の女子あり、此の二人は智識上德道上の力ありとは雖も外形には顯さず、其の戀と云ふ事は知らず〳〵の内に心に起り、姿實にあはれなる所ありて、婦人に尤も重んずべき、貞節温雅、柔和と云ふ德を完全に備へたる人なり、抑々此に擧げし三の德にして婦人に欠けたらんか其の人はや婦人にはあらざるべし、又能く此の三を備へたらんか其の人はたとへ他の力量あらずと雖も能く婦人たるを得べき人なり、實に此の三の婦德は欠くべからざるものにして神の此の世に送りし賜とも云ひつべし、さて此の三の婦德を完全に備へたらん女子か幸なる快き境遇に置かれたらんには、即ちシエキスピアが書きしテムペスト曲中のミランタとなるべし、あはれ若し斯かる女子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の獨り恐ろしき運命の内に投げ入れられ、腐敗せる社會に置かれ、たゆるに力なく防ぐに勢なく動くに意志なかりしならば如何に其の最後はいとあはれにはあらずや、彼の翁は誰れに寄せて斯くも悲しき女子を書きけるか。

オフエリアよ、あはれのオフエリアよ、棘あるいばらの此の世は美はしき彼女を保ち能はざりき、われは彼女の如何を云ふ能はじ、能辨も彼女の前には其力を失ふたれば、深夜人靜まりて後ちかすかに聞ゆなる悲曲の音に胸を痛むるが如く、將た枯れ果つるまでゆかしき香を止むるすみれ草の如く雪の片の風に動かされて地に留る前に消へ失するが如きは、オフエリアの姿にあらずや、觸れんか潰さんを恐る、考へんか悲深し、われ等は眼を閉ぢずしては彼女の前に立ち難し。思ふにシエキスピアが寫せしものゝ内にハムレツトを除きては、此のフオエリア程其作者のあるを忘れしむるものはあらず、彼女が曲中に少しく修飾もなくて現るゝを見る時は、面のあたり其の人に遇ふが如く、まことに自然にして一人のオフエリア目の前に來りしが如く感ず。

曲中の次第を考ふれば、オフエリアは早より宮中に生長し、夫の猛悪なる女王の許に仕へしが如し、而れども夫の猛悪なる女王さへも此の小女を愛しみしを見れば、小女の如何に可憐にして、且つは亦女子と云ふものは如何に猛きとは云へ其の心の奥底には猶優しき處あるを見るべし、女王ゲルトルードの心中には猶幾分の婦徳の殘りありしなり、見よ彼女がオフエリアの墓に花片を散らすの一段の如何に意外にして而も自然なるを。斯くして彼女は宮中に日を送れり、父と兄とは共にハムレツトの戀の賴み難きを誡めぬ、然れども遅かりき、オフエリアは既に恐ろしき運命の内に沒入しあればなり。

嘗て嵐の節一羽の雛鳩の迷へるを見たり、鳩は巣へ返る事もならず嵐を避くる本能さへなかりしが如く風のまに／＼吹きやられ逃れんと悶へたれどもせん方なく、追はれ／＼て果ては逆まく浪の中に吹きやられ、限りなく水葬りせられたるを見て深くあはれを感せしが、オフエリアの前に出れば又其の雛鳩と同じき運命にあるを思ひ出でずばあらず、小女は猶年少く重荷を負ふの力なく無垢にして助けなく、戀と悲哀とは彼が身を震ひ破りぬ、彼女が言ふ處は多からざれども明に其の意の潛む處を示す彼のジユリエツトの多辨なるに劣らず、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

若しジユリエツトを以て歐洲南部の多情なる女子とすれはオフエリアは北部のやさしき女子にして、自ら戀せんよりは戀せらるゝ人なるべし、然れとも一旦戀はれて後は其の戀するの深き先きに戀はれしよりは更に多かるべし。

兄なる人の縷々としてハムレツトの賴むへからさるを告くるや少女は敢てむけに否まんともせす、左れと人には天國一の荊ある道を敎へて自らは放蕩に流るゝ勿れとの意を答ふる如き、明に可憐の少女なるを思るべく、殊に其の父との對話を見は更に誠心の如何を知るへし、オフエリアの可憐なるは之をハムレツトの品格に比して見る時は愈々美の光の輝くを知るべし、ハムレツトは深刻にして而も哲理を懷くもの、女子にして能く彼の人爲を解するものあらは、其の人は能く彼を戀ゆるを得るや、われ未だ知る能はさるなり、試に沙翁か書ける女性を借り來りてハムレツトに配せんか、テスデモナ豈に家事を止めてハムレツトか心中の苦痛を聞かんや、ポルシヤの如きは彼の性質を究めん事を勉めしならん、ジユリエツトならは彼れを憐れみしならん、ロサリンドは微笑を以て慰めもしたらん、ビートリスは笑ひ去りしなるべし、イサベルは共に論辨せん、ミランダに至りては只に驚嘆するに止まりしならん、然れともオフエリアは彼を戀ひ慕へり、心單純にして思邪なく容易に情にからまる彼のオフエリアは實にハムレツトを戀ひしなり、斯くの如きの少女豈に能くハムレツトを知らんや、彼女は只如何にハムレツトの宮中に高貴なる公子なるを驚嘆して慕ひしのみ此れ豈に自然にあらずや。

書架

○日曜學校の敎へ方
聖書の眞理摘要

右二書ともに、横濱フエリス女學校敎授平野はま子の著述なり。何れも聖書の奧妙なる眞理を、極めて實際的に、尤とも卑近に敎授する方法を說かれたるものにて、サンデー、スクールの敎師を益するとは言ふ迄もなし。凡そ小學敎育に從事して、實物敎授に心をひそむる人を驚ろかすべき、妙にして

有益なる思ひ付き仲々に多し。

○婦人矯風雑誌

其第三號を出すに及び、躰裁ます／＼整ひ、いよ／＼實際矯風に力を盡すこととなりたり。

○いのち

兼て評判ありし田村直臣氏の「いのち」は、本年より毎木曜日發行となりて、去四日其第一號を出せり。卑近の實例を以て、道理を面白く説くは、此人特得の妙ならんか。

○君子國

一月一日より、題號の雑誌出づ。書報と題して、多く畫を入るると見ゆ。第一號に、孝子普喜齋氏の肖像（此度び綠綬褒章をうけし人）を掲げたるなど、尤とも喜こぶべし。

○萬國宗教大會議前篇

こは、佛教家の着眼を以て、シカゴの大博覧會中の宗教大會議を記述したるもの也。

小説

春風裡

其七（中）

トオストイ作
不知庵主人譯

志かし良人セルギイ、ミハイエロウヰチは忽ち社會に厭が來て、却て快々として面白からぬ躰であッた。けれど自分は此事を心配もせず、折々自分を睨視める渠を氣にも留めぬ。

自分は見知らぬ人や、あらゆる善美を盡した游戯に浮れて自分を支配する良人の嚴正且つ強硬なる勢力はいつか失せて仕舞つた。加之、自分が交際場裏に列するに良人と肩に並べて行くといふよりは、寧ろ其以上に禮遇せらるゝ樣な心地がして、夫故に自分は愈々厚くして且つ大なる獨立の愛情を良人に献げ得る事を感じた。

然るにセルギイは何故だか交際場裏で厚待さるゝ自分の首尾を見るを嫌ッた。で、自分が舞踏室に入て衆目が自分一身に集められた時、自分が揚々自得して一層曄然たる愉快が心

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

裡に沸騰した——其場合になるとセルギイは不思議にも自分の傍を離れ恰も自分が渠の持物である事を憚かる樣に稠座の中に紛れ込んで仕舞ふ。さも自分即ち渠の妻たる自分が斯くの如く歡迎さるゝを厭ふ如くに

『まアお待ちなさい、といつも此場合に自分は心中に繰返した。『妾の心を見せる時をお待ちなさい。妾は貴夫の爲に美しからん事を欲し、唯貴夫だけを愛します、妾の心は頓て家に戻れば分りませうよ。』

其中に、若や良人が自分に對して嫉妬の念を起しはせぬかと考へ出したが、自分の常に語らふ少年はセルギイと比較しては餘りに價値が無き過ぎる故、嫉妬を起す譯は迚も有るまじき樣に思はれた。兎にかく自分が臨席する多くの宴會で常に尋常ならぬ歡迎を受くる一事は自分に取りては此上もなき愉快の原泉で自分の虛飾心を頗る滿足せしめた。ソシテ、良人セルギイを愛する念が絶へず愈々熖えつゝある事が如何にも不思議だと不審る時すらあつた。

『昨夜はアブロモウチッツの伯爵夫人と大層お睦まじふござ いましたネ』と或る朝、夜會から戻ッてセルギイを嬲ッた、渠の手を握りながら調戯半分に。此伯爵夫人はペテルスブルグ有名なる交際の女王で、自分が生平最も仲善くする一人である。

『カシヤ、何故其ンな事をいふ？』とセルギイは云ッた。『彼樣な戯譃は元來お前の地にない事だ。手管染みた仕草は却て相互の敬愛を破る樣なもので甚だ好まん事だ。』

自分は此叱言に恥ぢて緘默した。

『どう思ふ、お前は、カシヤ？』

『妾は濟みません。だけど貴夫、お互の交は其んな事ッて氣まづくなる事はないと思ふワ、』と自分は答へた。實に自分は斯くあるべき事と慥に心に信じた。

『さう思へば夫は滿足だ、』と渠は答へた。『しかし、カシヤ、最う故郷へ歸ッてもいゝ時分だらう。』

此後二度とは歸鄉の事を仄かさなかッたが、セルギイが都住居に厭果てた容子は歷然として、自分が非常に歸國を恐れたにも關らず、どうしても歸られずにはゐられなかッた。

冬は倏忽の中に過去り、思掛けなくペテルスブルグで昇天祭を祝し、さて愈々其次の火曜日となり、歸鄉の準備萬端を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

整へて故鄕への土產物まで揃つた時、從妹のデミイコフ公爵夫人が突然訪ねて來て、ウォロンスキイ伯爵夫人が催ふしの舞踏會に出席する爲め土曜日まで出立を延引して呉れと勸告した

『といふのはネ、會主の伯爵夫人が是非に貴婦の御臨席を望んでいらッしやるからで、』と公爵夫人は自分に向ひ、『實はなにがし公爵樣が貴婦をペテルスブルグ第一の美人だと御意遊ばして、貴婦の御臨席がなければ出るのは厭だと仰しやいましたんです、斯ういふ晴の會があるのに袂を振切つてお歸りになるといふのは何分妾には請取れぬ事でございます』。

此時セルギイ、ミハイエロウヰチは部屋の一方で荐りに家僕に用を命けてゐた故、此公爵夫人の言葉が耳に入ッたか否、自分には分らぬ。

『カシヤ、お前は行くかエ？』とセルギイは云つた、『どうする？』

『明日はニコオルスキイへ歸るんでせう、』と云ッて秘とセルギイの顏を竊む樣に見ると、ハタと眼と眼が衝突ッた其途端にセルギイは彼方へと行かんとした。

『妾がセルギイに申しませう、』と公爵夫人は云ッた。

「けれども妾達の手筈が狂ッちまいますワ、」と行きたい心を辛抱して云ッた。

『今夜公爵の處へ行てお禮を申上げる方が好からうよ、』とセルギイは疳癪聲で、ツイ是迄になく激しく言放ッた。

「おほゝゝゝゝ！ 嫉妬をやいてサ、』と公爵夫人は微笑みながら、『だが、セルギイ、ミハイエロウヰチ、貴君の令閨を拜借するのは公爵樣ばかりの爲めぢやァないよ。』『どうとも勝手になさい、思ふ通りに、』と云てセルギイは何處へか行て仕舞ッた。

良人の立腹は一ト方ならず思はれたので、自分は發揮とした返事を公爵夫人に與へなかッた。

片々

○當年月次御歌題

宮中月次（每月五日、一月は廿五日）御歌題は左の如し、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

一月	海邊雪	七月	楠正行母
二月	鶯遲	八月	萩露
紀元節	春天象	九月	苔徑月
三月	西行法師	十月	秋の山苞
四月	別業花	天長節	鶴聲遙
五月	藤松懸れり	十一月	蓄音器
六月	新荷	十二月	神樂

○褒章

勅令第一號、一月四日に公布せらる、褒章條例の中、左の通り改正せられしなり。

第一條　凡そ自己の危難を顧みす人命を救助したる者又は孝子順孫節婦義僕の類にして德行卓絶なる者又は實業に精勵し衆民の摸範たるへき者又は學術技藝上の發明改良著述、教育衛生慈善防疫の事業、學校病院の建設、道路河渠堤防橋梁の修築、田野の墾闢、森林の栽培、水產の繁殖、農商工業の發達に關し公衆の利益を興し成績著明なる者又は公同の事務に勤勉し勞效顯著なる者を表彰する爲め左の褒章を定む

紅綬褒章

右自己の危難を顧みす人命を救助したる者に賜ふものとす

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕の類にして德行卓絶なる者又は實業に精勵し衆民の模範たるへき者に賜ふものとす

藍綬褒章

右學術技藝上の發明改良著述、教育衛生慈善防疫の事業、學校病院の建設、道路河渠堤防橋梁の修築、田野の墾闢、森林の栽培、水產の繁殖、農商工業の發達に關し公衆の利益を興し成績著明なる者又は公同の事務に勤勉し勞效顯著なる者に賜ふものとす

此の褒章は蓋し最上光榮のもとなり、願ふらくは之を領する人の多かれかし。

○ウイラードの猫

フランセス、ウイラードが安息處エバンストンの温たかきホームに、純白の猫一つあり、名をツーツと云ふ。この頃ろ、書記ゴルドン孃の手をかりて、公開狀をユニヲン、シグナル雜誌の紙上に掲げ、世の少年男女に訴たへけるは、

願わくは皆さん、私ども猫仲間が禁酒事業に贊成しながら、ニヤンとも出來かねまするを憫れと思し召し、私の寫眞一枚を二十五錢づゝにお買下され、多少の利得あるとき、少年禁酒軍の入用にするようの御助け願はし。私は寫眞屋の二階にチヤンと座つてうつるなど、ヲーヲー恐ろしき限りにては候へども、たゞ禁酒事業の爲めと思へばこそ、よく忍び得申すよに候しか〳〵。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎學校教育

●女子部と教科書の交換　附屬校主事山崎勇氏は石川縣人たるの緣故を以て松山學務屬に推薦せられ東京圖書會社より附屬主事に榮轉せし人なれば其當時は學務の僚屬と頗る親密にして圖書會社員たりし山崎氏特得の教科書賣込策も易々行れ得る摸樣なりしが裏面より觀察するときは大に否らざる事情の學務内に纏綿せるありソは學務屬松山顧武掛飛務の兩氏は掛長たりし熊野秀之輔氏と團結し高城與五郎氏を聘して教科書編纂の最中とも云ふべき時期にて他より教科書賣込を申込むも容易に承知する氣配なく爲めに山崎氏も計策施行の機會を得ずして日一日と延引せる中熊野氏常地を去ることゝなり掛長の椅子空を告げたれば大抵腕押しの松山掛飛兩氏は胸中互に長席を狙ふ野心自ら外に露はれ今まで頗る親密なりしに引換え相排擠する傾きを生じ惹えて松山氏に昵近せる山崎氏は掛飛氏の爲めに疎んぜられヨシ高城氏編纂の教科書無くとも山崎氏申込みの教科書と云はゝ學務の一致を得ずして排斥さるべき狀勢を現じ來り續て松山氏素志を達し掛長の椅子に凭りたるも掛飛氏依然學務内に强大の潛勢力を有するも既に通常縣會に對する學務說明委員其手に歸したるにても詳知し得らる左れば山崎氏愈賣込策を施すに術無く焦心苦慮の際先眦ち十一月初旬馬塲道久氏が貴族院議員たるの肩書を手寄つて東久世伯より教科書賣込の紹介を依賴し商法に拔目無き馬塲氏は直ぐ態々東岩瀨より來富德久知事の私邸を叩き又た縣廳へも出頭して直接德久氏と應對結約する所ろあり學務僚屬の手にある教科書さえアハレ東來の車塵に葬らるゝ究境に沈めり矧んや山崎氏の手にある教科書をや若し山崎氏の商才世間普通のものならしめば疾に斷念すべき筈なるもサスが東京の圖書會社にて研き上げたる腕前容易に屈する色無く益秘略を運らし過日通常縣會女子部廢止の氣焰盛んなる機を見て忽ち起り某氏に倚つて矢後議員を捕捉し其手を假りて氏が最も强敵と目指す掛飛屬を說伏したり其の談判當時の摸樣を敍せば矢後議員掛飛氏に面會し先づ詰らぬ談話を試みて後ち話頭を女子部に一轉せり德久知事女子部廢止を大に氣遣ひ島田書記官の如きは死すとも廢せずと議會に公言する程其存置に熱心せるなれば知事書記官の忠臣たらんと力むる僚屬何んぞ之れを憂えざらん談女子部に移るや掛飛氏熱心に存廢如何を矢後議員に反問せり矢後氏ワザと無邪氣を裝ひ廢止說勝利と云はぬ斗りの口吻もて答辨を與えしかば掛飛氏果して術中に落ち女子部存續を依賴し矢後議員機に乘じて山崎派教科書の採否を蔵談し若し之れを採用せば女子部を存置すべく否と云はゞ女子部廢すべしと頑を掘し背を搏の意氣込、掛飛氏終に降伏せざるを得ずして降伏せり掛飛氏にして降伏する山崎氏と交情淺からぬ松山氏特に學務編纂の教科書東久世伯の犠牲となりイヅレを採るも更に痛痒を感ぜざる今日如何んぞ故障を爲すあらん山崎氏の勝利火を見るよりも炳然、右聞く所ろにして眞ならしめば女子部交換の教科書採用令を見る亦た遠きにあらざるべし附屬校主事大儲け（十二月二十九日、富山日報）

●子守教育所　子守に雇はるゝものは過半賤民の子女にして無教育の中に成長し目に一文字も知らぬより平素背上の幼兒を過する道を知らぬは嘆しきことにて南安曇郡豐科尋常小學校長訓道槇石眞一郞氏は小守教育所設置の必要を感し村長藤森篤實氏に諮りたる處藤森村長も頗る贊成にて直ちに金十圓を寄附され其他特志者の寄附も多ければ取敢へず本月十日同所に於て子守教育所を開きたる所今日までに入校せしもの百餘名に及びたり今其の方法を聞く

一子守をして普通一般の知識を有せしめ幼兒の取扱法を教ふるを以て目的とす
一教授時間は每日午后三時より一時間乃至二時間とす
一教授する所の學科は左の如し
修身、幼兒取扱法及普通一般の禮法
讀書及び習字假名文及び容易の漢文交り文加減乘除裁縫（女子に課す）
一授業料及び全所に要する費用は一切徵集せず
一學習に要する諸器具は貸與す

注意

一幼兒を背負たる儘にて來るべし
一幼兒苦し泣く時は何時にても教室外へ出て妨なし
一書科本校生徒の飯るを合圖に來るへし
一子守にあらざる學齡兒童にして未た學校へ出てざるも來りて妨けなし
一男兒にても女子にても差支なし（十二月廿九日、信濃）

◎風紀

●岐阜金津廓の移轉に就て　前の前の岐阜縣令たりし故長谷部恕連氏は大の女嫌ひにて眼球の黑き中は同縣に藝娼妓を置かざるのみならず臨終のきはに及び手下の小崎利準氏を枕頭に招び寄せ汝余が是迄の恩を思はば汝の在職中は誓つて藝娼妓を設く可らずと論せしに小崎氏は其旨を領し公意に介する勿れ余謹んで其命を奉ぜんと答へしかば長谷部氏はこれにて余も地下に瞑するを得べしと言も終らず逝去したれば小崎氏の機令となり令となり知事となるも縣下に鄭聲を聞かず淫肆を知るものなく他縣の人一たび此地を過ぎて其美風を羨み縣民も亦一に故長谷部尹令の德を頌して措ざりしに如何なる天魔の魅入しや狡奴あり同市の南に當りて十幾町の地所を買占め且つ遊廓設置の請願をなせしに小崎知事は長谷部氏の遺言に背き快よく之を許可したれば狡奴は其地に遊廓を拓き金津と稱し一朝奇利を博したるが不思議や知事亦間もなく猗頓の富を來し縣下屈指の長者とはなりぬ玆に至りて悲しや美風良俗も何時しか亡びしのみならず金津の地たる縣立中學校に接して嚠喨の聲は絃歌と相和し監獄亦之に隣りて鐵窓の下囚徒をして鶴掛松の感を惹かしむるものあるに至り風紀上將た公安上大に行政の障はりとなりたるより

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

有志の士は大いに之を憤慨し中學校移轉の說起り一時大に熾盛を極めたるも其後寧ろ遊廓を他に移すべしとの論出でゝ勝を制し遂に縣會の建議となり數日前漸く可決したり然るに斯と聞きたる同地早田村附近即ち岐阜市北部の有志者は之が移轉費として一万圓を差出すべければ常早田村に移轉せられたしと請願し遊廓の各樓主は目下非移轉の運動に汲々たる有樣なるが現任曾我部知事は加何に之を處分せんとするか我は此際斷然たる處置を施し期限を定めて娼廓を廢止するの擧に出づるあれば衰へし美風は舊に復して金華の山よりも高く亡びし良俗も古に回りて藍川の水よりも淸きを誇るに至らんか（十二月三十一日、萬朝報）

◎記事

明治廿六年度中博愛社記事概畧

明治廿六年は全く本社の試煉の年にてありし三月に至り兼て病床にありし社長遂に永眠に就くの不幸に遭遇せり五月に至り是れ迄本社に教養し君りし孤兒拾三名岡山孤兒院の都合にて該院へ引取られし其後只一名の預り兒一名の孤女本社附屬の孤兒二名合して四名而已となれり爰に一の難件を生ぜり故社長孤兒實業的教育のために獻せし博愛社基本財產を奪はれ博愛社をも撲滅せられんと强き迫害に遭遇せり九月に至り熱議熟熱の末前途の方針を定め財產一切を打捨て明年大阪へ社を移し天父の御助とキリストの御指導の下に粉骨碎身本社の天職と信ずる實業教育をなさんことを定め爾來專ら其方針實勵準備なしつゝ本年を終へり尙來らんとする明年は强き決心を以て迎へんことを期す主よ助け玉へ

教育

本年中の教育朝の教授夜學其他終日の實業により智德躰の三育通常の進歩を至せり本年中授業時間合計七百十二時間

衛生

本年三月に至り社長兼ての肺患にて遂に永眠せり九月に至り赤痢病侵入せしも幸にして蔓延に至らざりし其他輕症に罹りしものもありしが概して一同健全なりし

實業　晴天二百七十九日曇天二十九日雨天五十一日半降雪五日半
　　　溫度平均六十一度五分

一月より三月迄專ら山林伐採に從事し之を那波濵に賣出せり四月より六月迄水害地修繕及び麥刈り稲田の植付等に從事せり七月より八月迄田草取り幷に灌水に力を盡せり九月より十月中旬迄野菜物播種及時に山林伐採をなせり十日下旬より十一月迄秋穫麥蒔き十二月は專ら山林伐採濵出に從事し其他田畑の耕耘をなせり本年中所有田畑より收穫せし產物次の如し
一麥四石、一小麥二石一斗八升、一蠶豆九斗、一豌豆壹　、一梅實一斗、一米十三石六斗六升、一大豆九斗二升、一粟一斗六升、一蕎麥一斗六升、一甘藷十貫目
其他自用の野菜種々
所有耕作の田地壹町三畝十三步、一同畑一反五畝〇五步、一山林四町六反九畝廿一步、

家禽業部本年一月より專ら雛の孵化に力を盡し六月に至り七十二羽に增加せり其後管理の不行屆になりしため多く死亡せり其他賣拂及他へ送りなどなし現在數僅に十六羽となりし本年の養鷄は好果を見る能はざりし

會計

本年中總收入高四百三拾五圓九十九錢六厘

内譯

一金三圓四拾二錢四厘　前年越高
一金二百圓四拾七錢七厘　田畑ヨリ收入
一金八十七圓拾六錢六厘　山林ヨリ收入
一金六圓三拾三錢六厘　家禽業部收入
一金六十九圓七十七錢　寄附金合計
一金二十四圓　預兒月俸
一金四十四圓八拾二錢三厘　勞力賃金幷ニ雜收入

本年中總支出高四百三拾五圓四錢七厘

内譯

一金百三拾圓二拾三錢　米
一金四拾六圓五十五錢七厘　野菜　雜穀
一金拾六圓拾四錢六厘　鹽醬油
一金拾四圓三拾四錢一厘　肉乳卵
一金八圓十八五錢五厘　八百屋物類
一金十一圓二拾三錢三厘　薪炭油
一金三拾四圓六拾二錢三厘　被服
一金拾圓六錢七厘　器具
一金八圓八拾八錢四厘　税金
一金四拾二圓五十八錢六厘　筆墨紙
一金五圓四拾六錢三厘　醫藥
一金三圓六錢四厘　慈善費
一金拾六圓廿八錢二厘　郵便費
一金九圓四拾三錢五厘　旅費及運賃
一金拾圓廿一錢六厘　肥料、謝金、幷
一金六拾七圓七錢五厘　ニ雜支出

差引殘金九十四錢九厘　操越高

家政部

麥飯　白米合計十六石七升七合
　　　麥合計九石三斗一升　米麥比例五ト三一人一日平均五合六勺麥二合二勺米三合四勺
庖廚
副食物本年中田畑より收穫せし野菜一日平均の價四錢三厘肉類八百屋物五錢
庖廚入費　一日一人平均五錢九厘（價四錢）
鹽分の量本年中合計醬油一石九斗余一人一斗六升余一日一人平均四勺余鹽九俵

衣服

本年中洗濯仕立揚げし衣服單衣袷綿入合計二拾八枚羽織八枚蒲團三十枚其他足袋メッチシャツ等の洗濯手入をなせり

◎片々

○祖先の遺業を紹がんとす　碩儒中井履軒、竹山兩先生の孫、祖先の講學所水哉館（履軒）懷德堂（竹山）を再興し殊に其水哉館を女學に供せんと暫く趣意書を江湖に發布す（一月九日、國民新聞）

兒藍

右は、若松しづ子病中につき、本號にも掲載いたしかれ候。又孤兒院に關する問答は社說欄内にうつし、其他預告の分は追々に掲載いたすべく、序でをもつてこの所ろに陳ト候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

俳諧史傳　近刊

◉小北木、布川兩氏の著『俳諧史傳』正さに出むとす。嘗て『城南評論』『評論』の紙上、多少の讀者をして其精細なる筆法に傾倒せしめたる兩三篇は、實に斯の書中の一部のみ。

◉思ふに、俳諧は我文學史上に、一大特殊の光明を煥發し、三百年の間、庶民の美妙なる想念を漾蕩せしめ、豪宕なる漢詩、優婉なる和歌以外、別に、幽玄、閑寂、悲壯、沈痛なる詩天地に逍遙せり。

◉俳諧は和歌に孕まれ、連歌に興り、松永貞德となりて、諧謔を擅にし、西山宗因となりて、奇巧好笑なる擅林の花を咲かしめ、更に、詩聖松尾芭蕉の大手腕をかつて、正風俳諧となり、平民的叙情短歌の面目を搆成す。

◉其源流に遡り、其發達を討ね、其推移を叙し、其變遷を記し、其特相を論じ、一讀の下、燦然として讀者の脳裡に斯の文學を活現せしむるものは、我『俳諧史傳』なり。

◉これを分てば俳人個々の傳記となり、これを聯ぬれば、一篇整然たる文學史をなす。逸事ありて、以て興趣を横溢せしめ、名句ありて、以て一誦、天地の幽遠なる秘奥に冥合せしむるに足らむ。

◉若しそれ、一字苟もせす、一筆輕々に下さず、言々證あり、句々據るところあり、而も文章、平易簡明、叙記、精到凱切なるや否やは、世の公論に一任せむのみ。世の俳諧を知らむとするの士、一本を座右に備へば、得るところ豈に鮮少ならむや。

◉今や我社は斯の『俳諧史傳』の印刷に着手せり。讀者の机邊に現るゝは旬日の中にあらむ。敢て豫め公告すると爾かり。

發行所 東京神田表神保町六番地　**女學雜誌社書店**

文部省普通學務局學校衛生事項取調囑託醫學士三島通良先生著

學校衛生學

全壹冊 洋裝背皮金文字入美本
正價金六拾錢
郵税金八錢

三島醫學士か學校衛生學に就て、如何なる學術と我國に於ける功績とを有せらるゝかは、江湖既に定論あり。本書は實に學士か公命を以て四方を巡回し、今日の學校と生徒とを調査したる刻苦丹精に出て、猶ほ前任文部大臣一伯一子の勸誘に成る。其議論の斬新正確にして我國學校の實際に適合すへき事は論を俟たす、醫師、教育官吏、教師及ひ校舍建築工師は、必す一讀すへき寶典なり

文部省普通學務局學校衛生事項取調囑託醫學士三島通良先生著

救世 種痘學

全一冊洋裝
新版種痘手術圖解入

正價金二十五錢　郵税二錢

種痘の世に鴻益あるは何人も知るところなれども、其何れか眞正の種痘法なるやに至りては之を識る者稀なり。是蓋し年々天然痘の流行する所以なり。本書は最新の學理と數年の實驗とにより、先生の著述せられしものにして、議論嶄新、例證正確、種痘學に於ける近年の良書なり。醫師は勿論衛生に關係ある吏員及ひ學校教師は必す一讀すべきものなり。

賣捌所 東京市神田區表神保町六番地　**女學雜誌社書店**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

再版

巖本善治妻 譯

（リツトルロード フオントルロイ）

小公子

子供のよみ本

（早稻田文學第四號）
坪内雄藏君批評

原書の精神は無邪氣なる小公子を主人に利己にのみ傾ける老貴族を副主公にして「無邪氣」の周圍に及ぼせる感化並に周圍の「無邪氣」に及ぼせる影響を寫さんと力めたるものゝ如し小說としての價値如何は譯書に就きて論ずべきにあらず只一言すべきは斯く純潔無垢の良小說を紹介したるは女學雜誌社平素の主義よりいふも誠に能く撰みたりと云べし譯文は誠に流暢平易なれど其中に譯者が深切なる苦心の跡見えたり就中長幼貴賤の言語を別たんとて又は文情の調和をはからんとて「キツト」「大した」もの「鼻が高い」「目がない」等の俗語を用ひたるが如きは殊に全力を灑きたりと見えていとめでたし行文の中に餘り多く「御」の字を用ひたるが少しく耳だてど咎むべき程にはあらず「人にいひ〳〵しました」「しつかり步いてゐました」など言葉を重ねたるはおのづから優しき女敎師が幼童に敎ふる時の風に似たり何れも譯者の婦人たるを證してなか〳〵にゆかし」兎に角當今外國美文學輸入の必要あるに際し斯く原文の精神と外形とを寫し出さんと力めし翻譯の見はれしは文學のため賀すべき事なり。

正價金二拾八錢　郵稅金八錢

櫻井明石君譯

希臘孝子

腓立比物語

大形洋綴美製
定價金卅五錢
郵稅金六錢

今を距ること六十年希臘國の勇士等、土耳其國の壓制に堪へず義兵を擧げたりし時、一方の將となりたる、メサロスなるもの戰敗れて、其妻と共に奴隷に賣られて、遠くアラビヤのバグダッドへ連れ行れて、苦役に服しをり、其子腓立比其時六才なりしが、或人に養育せられて、十七才に至りたる時、土國より遣はされたる管領の危難を救ひしが緣となり、管領腓立比の至孝勇猛に感じて莫大の金を與へ、船を用意させて兩親を贖ひに出しやり、船中にて腓立比は船長の危難を二度助け、又船長の助言により腓立比基督信徒の身を以て、土國マホメット宗徒の假裝を爲して、單身にて隊商の群に加はり愈アラビヤの沙漠に乘り込み、沙漠中にて其基督敎徒なること露見し殆ど生命も危かりしを、隊商の頭領其至孝と堅信とに感じて、大に腓立比を省みるに至り、後又隊商等がアラビヤのベドウイン族に剽掠せられ囚虜となりし時、腓立比も、亦囚人となり、爾後幾多の艱難變遷ありて、終に酋長腓立比の志に感じアラビヤの健兒に護送させてバグダッドへゆるし遣り、バグダッドにて非常の困難に遭ひ大失望したりしも、圖らぬ助を得て遂に兩親を奴隷苦役の中より十二年目に茅出度救ひ出しぬ。

發行所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

岡田起作先生書

かな習字帖

一冊 正價金十二錢 郵稅金二錢

方今女子書躰の衰頽せるを憂ひ之を矯正せむとて新教授法を發明せられたる岡田先生が多年の經驗により極めて習ひ易き字躰もて徒然草の中修身に關する章を書せられたる習字帖にして高等小學第三第四年級より高等女學校第一第二年級の習字科に適當の者なり尙ほ引續き逐次優美なる習字帖を發刊せんとす抑も岡田先生は現に女子高等師範學校。高等女學校。東京府尋常中學校。明治女學校。女子文藝會。立教女學校。成立女學校。等より教授を囑托せられ各生徒進步の著しきは皆人の稱道する所なり之に因りて教授の懇篤なると能書の名聲あるを知るに足れり今此習字帖世に出づ是によりて進まば奇僻に墮るの患なく優美なる域に進むの楷梯たらんとす

河村墨稼 書

十體千字文

千字文講義 實語教俗解 童子教俗解

全一册和裝 上等日本紙●印刷鮮明 正價拾五錢 郵稅金四錢

頃日臨池社會に一新面を出せる河村墨稼先生の十體千字文は則是也、開卷目を披けば、古なるもの、新なるもの、奇なるもの、正なるもの、畵に似て文字なるもの、豪宕なるもの麗淸なるもの、墨稼先生の神筆をかりて之を現す、加ふるに附錄として**千字文講義、實語教、童子教の俗解**ありて諸書百家の言を引證し、之に詳細なる解說を下し其書を學ぶもの丶用に供するのみならず、又其意味の深遠なる所以を知らむ、眞に是萬能共に到るの良本也

。。。。。文部省檢定濟高等小學校教科用。。。。。

藤尾錄郎君著 田口卯吉君序

實地應用 家計簿記法

全 正價金二十錢 郵送料金四錢

此書ハ只朝夕數字ヲ記入セバ一家ノ出納細大漏サズ之ヲ明ニスルヲ得セシムルモノニシテ公私ノ學校生徒ハ固ヨリ官吏、會社員、農工商ニ論ナク凡ソ一家ヲ經營スル者ハ必ズ購讀スベキノ要書ナリ

。。。。。文部省檢定濟高等小學校教科用。。。。。

藤尾錄郎君著

實地應用 家庭簿記法例題

全 正價金十錢 郵送料金二錢

右ハ前書家計簿記ニ據リ記入法ヲ習學セントスル者ノ爲ニ例題ヲ設テ其標準ヲ示シタルモノナリ

●日記帳 正價金六錢 郵稅二錢
●元帳 正價金六錢 郵稅二錢
●賄費仕拂帳 正價金十錢 郵稅四錢

但三冊一ト纏メニナス時ハ郵稅金六錢

右ハ前書家計簿記法ヲ實用ナサレ候方ハ勿論又同法例題ニヨリ簿記法ヲ習學ナサレ候女學生諸君其他一般ニ簿記ヲ習熟セラレントスル方々ノ御便利ノ爲メニ調製セシモノニシテ此三帳簿アレバ一家ノ經濟ヲ容易ニ整理シ得ベク若クハ容易ニ家計簿記法ヲ習熟スルコトヲ得ベキ極メテ重寳ナル帳簿ナリ

賣捌所 東京神田表神保町六番地 **女學雜誌社書店**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

横山雅男君著

婚姻論

目次

第壹章 總論
第二章 婚姻の定則
第三章 婚姻は人類の天性
第四章 婚姻の効力
第五章 婚姻は社會の盛衰によりて增減す
第六章 早婚上
第七章 早婚中
第八章 早婚下
第九章 晩婚
第十章 私婚上
十一章 私婚下
十二章 血族婚上
十三章 血族婚下
十四章 濫婚上
十五章 濫婚下
十六章 離婚上
十七章 離婚中
十八章 離婚下
十九章 正婚
二十章 結婚年齢
廿一章 離婚年齢の差
廿二章 男女共諸法上
廿三章 男女共諸法中
廿四章 男女共諸法下
廿五章 男女互に撰ふ事
廿六章 離婚の境界
廿七章 離婚
廿八章 結論

目次終

洋綴中本 二百三十九頁
正價 金拾六錢
郵稅 金四錢

船越鼎太郎君著

產婦小兒 攝生法

目次

第壹章 月經
第貳章 姙娠したるを知る法
第三章 出產期日を知る法
第四章 姙娠中の攝生法
第五章 分娩期中の攝生法
第六章 產後の攝生法
第七章 初產兒の所置
第八章 哺乳期中の攝生法
第九章 生母の乳汁を用ひずして乳兒長育法

正價 金拾錢
郵稅 金貳錢

鈴木弘恭大人講述

第五版

百人一首講義

（附錄小倉てびき）

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第四版品切に成りたれば茲に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶なり。

正價 金廿八錢
郵稅 四錢

鈴木弘恭大人著

再版增補

文法口授 一名和文獨案内

（半紙判日本綴）

正價 金拾二錢
郵便稅 金二錢

目錄

（一）文と云ものゝ譯
（二）章句段節の譯
（三）文を作るは容易なる譯
（四）多く文を作るを善とする譯
（五）文を作る工夫の事
（六）直稿の譯弁に書方
（七）文を練磨する事
（八）文を作るに病癖ある事
（九）佳篇を作る法
（十）文を培養する法
（十一）種々の文例

發行所 女學雜誌社書店

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

賣捌所　東京市神田區表神保町六番地　**女學雜誌社書店**

前文部大臣海軍中將
從二位勳一等子爵　榎本武揚題字
醫科大學産科學　醫學博士濱田玄達先生
婦人科學教授
醫科大學小兒科　醫學博士弘田　長先生　校閲
學教授
文部省學校衛生事項取調囑
託帝國大學大學院醫學士　三島通良先生編述

皇后陛下御覽

はゝのつとめ

全　二冊
定價金五十錢
郵稅金六錢

增補訂正第五版　美書入日本綴美本

目録

親の卷

第一章 妊娠　第二章 妊娠中の養生
第三章 出産　第四章 産蓐

子の卷

第一章 小兒敎養法の精神　第二章 人乳
第三章 乳母　第四章 人工養育法
第五章 生齒迄の小兒敎養法　第六章 生齒
第七章 生齒後夜の小兒敎養法　第八章 種痘
第九章 小兒の疾病及攝生法
第十章 身體の發育智識の發達より就學兒となる迄の母の職務

前櫻井女學校々長櫻井女史著

婦人立志傳

大判美本肖像入
正價拾錢
郵稅四錢

夫れ鏡は古より婦人の魂なりと云傳へたる其所以をもとむれば吾人の尤も注意すべきものあるなりそれ鏡の影は清く明にして僞らず飾らず其形圓くして角なし以上は婦人の實にあらずや魂にあらずや然れども世の澆季に流れ末世に至るに及びては誰れより鏡に對ひて耻ちざらんやこれ其容貌の醜きが故にはあらず心の汚なき故なるべし今博く萬國に淑德貞潔なる婦人の性行逸事を求めて玆に婦人立志傳と銘うちたる鏡を鑄たり清き事水の如く明なる事月に似たり世の婦人諸彦幸に坐右に備へて日々其心をうつし少しなりとも醜所あらばあらため給はん事をと願ふになん

高等女子師範學校長
從三位細川潤次郎君題字
中島知子著　岡田廣鶴女史揷畫

校正

日本の裁縫と女禮

第二版
和裝本全二冊金四十六錢郵稅不要

本書は縫ぬぎの初歩より衣服袴等に至るまで順序を逐ひ裁方縫方並道具の使用法まで一々圖解を以て叮嚀に談の躰に書綴尙物事にふれて女禮をも夥多の彩美書を加へて說き示し師を要せず女子の道を悉く覺る寶典なり第一版は賞品等適當とて好評を得て既に賣盡し今更に校訂再版出來せり婦女方は早く購められよ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

賣捌所
東京市神田區表神保町六番地
女學雜誌社書店

横井時雄教師序
櫻井女史著

童子

全一冊 正價十五錢 書入郵税四錢

目次

第一 元日のはなし
第二 風船の話
第三 學校へ行途にて遊んだ娘の話
第四 人を疑ふ娘の話
第五 一ツの金錢三人を殺した話
第六 米國合衆國の大統領ワシントンの話
第七 ジョンブライトの話
第八 リンコルンの話
第九 馬鹿な猫の話
第十 他人過失を見付て自分の過失を知らぬ子供の話
第十一 一ツ目人の居る島の話
第十二 落第した子供の話
第十三 各々異りたる天才ある話
第十四 雄鶏の話
第十五 感心な犬の話
第十六 蝸牛に敎へられた子供の話
第十七 悪敷すゝめに從ひたる子供の話
第十八 感心な子供の話
第十九 佐久間格次郎の話
第二十 大晦日の話

栗本彦七君編纂

庭のをしへ

全一冊 正價八錢 郵税二錢

附福島中佐の傳

○第一章 孝といふ字の話
○第二章 悌といふ字の話
○第三章 忠といふ字の話
○第四章 諫といふ字の話
○第五章 信といふ字の話
○第六章 智といふ字の話
○第七章 仁といふ字の話
○第八章 勇といふ字の話
○第九章 武といふ字の話
○第十章 義といふ字の話
○第十一章 烈といふ字の話
○第十二章 節といふ字の話
○第十三章 禮といふ字の話
○第十四章 敎といふ字の話
○第十五章 習といふ字の話
○第十六章 忍といふ字の話

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女生徒募集廣告

今般更ニ女生徒ノ訓陶及授業ニ經驗アル内外ノ良教師ヲ聘シ來ル一月十日ヨリ始業ス但入學手續及授業科目ノ如キハ本校規則ニ就テ知ルベシ

麹町區五番町十五番地
静修女學校

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵税共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全部十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何をか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
女妻論……六十四
母學に反對する言論……八十四
日本女學讀本編纂……九十二
女禮と躰操……百
上躰操……百
下女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君内助の辨……百五十九
當今女子教育の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

明治女學校出版

發賣所
東京神田表神保町六番地
女學雜誌社書店

御おしろいたし元祖

純良麝香入新發明ねぢ口輕便器物入なるを以て貴婦人に必要の品なり

貴婦人方にも御弁利の品あり

ねぢ口にて奇妙の入れ物あり

東京馬喰町一丁目（電話六五二番）
有名賣藥化粧品類問屋宮内省御用達
岳陽堂　平尾贊平

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

上杉鷹山公

渡部乙羽君著　寺崎廣業密畫

米澤の大守上杉鷹山公の性行逸事、描き來りて聲色凛々、有數政治家としての渠れ、千古經濟家としての渠れ、幼年としての渠れ、君守としての渠れ、明君賢臣相遭ふて宏德一代に普き千載の美談、皆是少年立身の一大龜鑑、紙上冉々として一大偉人の躍り來るを覺えん。

三宅青軒君著　武內桂舟密畫

全一册和製　正價金十二錢　郵稅金四錢

賴山陽

日本外史、日本政記の著者として、雄渾奔放の文章家として、兒童走卒も其名を知らざるなきは、山陽先生賴襄氏なり。而して徒に其名を知るもの多く、其人となりの如何に尊ぶべく敬すべきかを、知るもの少なきは何ぞや。一部完全の傳記なきに因らずんばあらず、是れ此編のある所以なり。此編を繙くものは、始めて山陽の山陽たる所以を知らん。

全一册和製　正價金十二錢　郵稅金四錢

千島實業地誌

公爵近衛篤麿公題字

海軍大佐從五位肝付兼行君

千島國捉擇島　太田代十郎君著

本誌は全島の沿革、人種、言語、宗教、風俗ヨリ地理氣候海陸產物等ヲ實察セシ處ヲ悉ク詳述シテ餘蘊ナク即チ今ヤ國防上ニ取テ有用欠クベカラザル（且ツ諸新聞ノ高評ヲ受ケシ）良書ナリ乞フ天下ノ志士幸ニ買讀アランコヲ

正價金二十五錢　郵稅金四錢

賣捌所　東京表神保町六番地　女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

一册數	定價前金	市外定價郵稅共
一册	金六錢	金六錢五厘
十册	金五十八錢	金六十三錢
廿六册（半ヶ年分）	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二册（一ヶ年分）	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らず一ツ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割增（五厘切手に限る）にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何册分と詳細に御書添への事。

發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿七年一月十二日印刷
明治廿七年一月十三日發行

發行兼編輯者　東京市麴町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　仝　牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地　根岸高光
發行所　仝　東京北豊島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社
印刷所　牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　秀英舍工場（電話十九番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY